

〔話題〕 台湾大学医学部解剖学教室を訪ねて

松野 義晴 戸高 恵美子 森 千里

はじめに

環境生命医学教室の森 千里教授、戸高恵美子助手と松野の3名は、2005年6月27日から28日にかけて、国立台湾大学医学院解剖学および体質人類学研究室（以下、台湾大学医学部解剖学研究室）を訪問する機会を得ました。台湾大学医学部は、台北市内の中心部に位置し、台湾において優秀かつ名門大学の一つです。今回の訪問先である台湾大学と本教室の関係は、森教授の祖父にあたる森 於菟（もり おと：1890-1967）博士が、東京大学医学部を卒業後、ドイツ留学を経て1936年から1947年まで台湾大学の前身である台北帝国大学に在職していたことが発端になります。於菟博士は第2次大戦の終戦後まで医学部長を勤められ、台湾国内の多くの医師の育成に尽力されました。また、於菟博士は1960年代に本学において骨学の非常勤講師を務めていました。2004年末、於菟博士の教え子らが台湾大学医学部校内に胸像を建立していただき、除幕式が開かれました。その際、森教授が祖父である於菟博士と同じ解剖学者という道を歩んでいることを聞き及んだ台湾大学関係者の計らいにより、今回の訪問に至りました。

台湾大学解剖学教室における特別講演

森教授が台湾大学医学部解剖学研究室の会議室において、本教室の紹介を兼ねた特別講演を台湾大学解剖学スタッフ10名に対して行いました。ここで、台湾大学医学部解剖学研究室を簡単に説明

すると、現在の解剖学研究室は大講座制からなります。主任教授1名、教授5名、助教授4名および複数の講師・助手が所属し、肉眼解剖学に加え組織学、発生学および神経解剖学を医学部学生および博士課程学生に教育するとともに、主に細胞生物学に関する研究を行っています。森教授の講演では、近年本学において特に精力的に取り組んでいる医学部学生に対する効果的な解剖学教育方法と、コメディカル教育機関（医療従事者養成機関）に対する解剖実習見学法等に関する新たな試みについての説明が行われました。これらの内容の詳細については先行論文[1-9]に従うものです。森先生の講演内容は聴講する台湾大学解剖学スタッフにおいても非常に興味ある内容であったようです。講演後、両大学における共通の教育テーマである肉眼解剖学に関する質疑が活発に討論され、両大学にとって大変有意義な講演内容であったことが伺えました。

台湾大学医学部解剖実習室・骨標本室の見学

台湾大学医学部解剖実習室および骨標本室の見学には同研究室の名誉教授であり、於菟博士の教え子の一人でもある蔡錫圭先生にご案内いただきました。蔡先生は、80歳を越える現在においても、台湾大学が保有する2,000体以上におよぶ骨標本を管理する一方で、人類学の研究を行っていらっしゃいます[10]。

まず、我々は解剖実習室および霊安室の見学を行いました。特に我々が関心を寄せた点は、解剖実習室が医学部本館の中心かつ1階に位置するこ

と、実習に提供いただいた献体者の氏名等を実習室出入り口に貼付し紹介している光景です（写真1）。日本国内の解剖実習室の多くは地下あるいは最上階、さもないと教育・研究棟とは別に解剖棟を構えるのが一般的です。解剖実習室がこのような場所に位置することについては思いにもよる光景でした。この点については、医学部本館の地上1階中心付近に位置するよう蔡先生等を中心とした働きかけがあり、現在の場所に実習室を構えるに至ったとのこと。また、献体者の氏名の公開については、日本と台湾との個人情報に関する対応の違いがあるとはいえ、未だにその取り扱い方に戸惑いを隠せないのも正直な心情です。



写真1 献体された故人の名が実習室入り口に供覧されている光景

次に、蔡先生が管理する骨標本室（正式には體質人類学研究室）の視察を行いました。標本室は地下1、2階に位置しています。防犯対策が施された重厚な扉を開けると再び施錠システムを有する、いわば二重扉となっており、貴重な資料を保管していることを入室前から我々に予感させるものでした。室内に入ると、その両端には数多くの頭蓋骨標本が保管されていました（写真2）。

台湾大学において保管する2,000体を超える骨標本の数とその整然たる保管状態に圧倒されたほか、これらの骨標本を維持する蔡先生のご尽力に敬服しました。台湾大学では、これらの標本について国外の研究者に対し研究利用の門戸を積極的に開いている実情を知り、まさに貴重な骨標本であることを再認識させられました。

本学においても、平成16年度から約300体の骨



写真2 頭蓋骨の標本棚（他の骨については別のフロアーにて保管されている）

標本の保管環境の改善を試みており、今回の台湾大学における骨標本管理状況の見学が、非常に参考になったことは過言ではありません。

台湾大学医学部修士課程学生への特別講義

骨標本室見学を終え、森教授および戸高助手が、台湾大学医学部公衆衛生学の修士授業カリキュラムにおける「化学物質に対するリスクコミュニケーション」の特別講義を行いました。両先生の熱のこもった講義内容もさることながら、50名前後の修士学生が私語や居眠りすることなく真摯な態度で講義を聴講する姿に、傍聴者の一人である小生も驚嘆してしまいました。

おわりに

今回の訪問を通して、台湾大学の大学院生およびスタッフが常に高い問題意識を持ちながら討議する姿勢が、我々にとって特に印象深いものになりました。また、素晴らしい環境の中で保管される骨標本とその維持管理に尽力なさる蔡先生の真摯な姿に深い感銘を覚えました。

ところで今回の訪問中に、森先生が台湾大学医学部解剖学研究室と本教室との合同研究会の開催を希望していることを、台湾大学解剖学スタッフ

に提案させていただきました。近い将来、共通の課題である「解剖学」の情報交換が実現できることを期し、我々は日本への帰路につきました。

文 献

- 1) Ohmichi K, Komiyama M, Matsuno Y, Takahashi Y, Miyamoto H, Kadota T, Maekawa M, Toyama Y, Tatsugi Y, Kohno T, Ohmichi M and Mori C. Formaldehyde exposure in a gross anatomy laboratory - personal exposure level is higher than indoor concentration. *Environmental science and pollution research international*. 2005 (in press).
- 2) 松野義晴, 川端由香, 小宮山政敏, 豊田直二, 門田朋子, 森 千里. 医学研究遂行に関する事務手続きの改定～千葉大学の献体手続きの改訂実施要領～. *解剖誌* 2002; 77: 17-20.
- 3) 川端由香, 松野義晴, 門田朋子, 小宮山政敏, 豊田直二, 門田朋子, 森 千里. コメディカル教育機関に対して実施する解剖実習見学方法改訂の一例. *千葉医学* 2002; 78: 147-150.
- 4) 松野義晴, 小宮山政敏, 門田朋子, 川端由香, 小野祐新, 佐藤浩二, 足達哲也, 森 千里. 千葉大学におけるコメディカル学生の解剖実習見学に対する意識調査. *解剖誌* 2002; 77: 77-80.
- 5) 松野義晴, 川端由香, 小野祐新, 佐藤浩二, 足達哲也, 小宮山政敏, 門田朋子, 森 千里. 千葉大学の篤志献体団体による解剖実習施設見学会の開催報告. *千葉医学* 2002; 78: 203-7.
- 6) 松野義晴, 門田朋子, 小宮山政敏, 森 千里. 千葉大学の生前医学研究承諾に関する報告. *解剖誌* 2003; 78: 19-21.
- 7) 松野義晴, 門田朋子, 国府田正雄, 小宮山政敏, 前川真見子, 外山芳郎, 立木幸敏, 河野俊彦, 森千里. 千葉大学における肉眼解剖実習見学の指導担当制の導入とその成果. *解剖誌* 2004; 79: 35-9.
- 8) 大道公秀, 松野義晴, 門田朋子, 国府田正雄, 小宮山政敏, 前川真見子, 外山芳郎, 戸高恵美子, 深田秀樹, 立木幸敏, 河野俊彦, 森 千里. 解剖実習におけるホルムアルデヒド曝露と自覚症状の変動. *解剖誌* 2004; 79: 95-100.
- 9) 松野義晴, 門田朋子, 小宮山政敏, 森 千里. 千葉大学における肉眼解剖学の基盤整備の試み. *千葉医学* 2005; 81: 11-7.
- 10) 森 千里. 千里の道も一歩から; 祖父の肖像. *Indust* 2005; 8: 82-3.